

編集後記

『大分県地方史』一九三号をお届けします。本号は、平成一五年度に創立五〇周年を迎えた大分県地方史研究会の記念号の第三段にあたるもので、永年にわたって研究会に携わって各分野で中心的に活動されてきた橋本操六、後藤正二、佐藤満洋、小玉洋美、後藤宗俊、真野和夫、渋谷忠章の各氏に、インタビューまたは座談会形式で、それぞれのお立場から研究会の活動の歴史や果してきた役割などを振り返ってお話していただきました。五〇年の節目を迎えて、「故きを温ねて新しきを知る」の言葉ではないですが、研究会の発展に必要な今後の指針も提示いただいています。研究ノートとして野田秋生氏の「中津市校の高田『分校』について」の論考を、史料紹介として甲斐素純氏の「明治二十一年の市制・町村制と玖珠郡・日田郡・新町村名選定事由を中心として」（その一）を掲載しました。前者は、これまでに知られていた中津市校の「分校」の他に、同様に福沢諭吉・小幡篤次郎らの影響を受けて中津市校の「分校」化した高田の「私学校」の存在を新たに検出されています。後者は、明治二十一年の「市制・町村制」の施行で新たに誕生した町村名がどのような理由で成立したかを日田・玖珠郡の事例で紹介されたもので、現在進められている市町村合併の問題を考える上で示唆的な内容です。

また、八幡神の研究者として著名で、平成一五年一月三日に他界された中野幡能氏の追悼を兼ね、氏の研究と地方研究との関わりについて飯沼賢司氏から「地方史と中野幡能」の小文を寄せいただきました。

なお最後に、今回の会談等にご臨席いただき、またテープ起こし等にご足労いただいた若杉昌昭、小泊立矢、佐藤晃洋、田中祐介、三重野誠の各氏にこの場を借りてお礼申し上げます。

大分県地方史 第一九三号

平成十七（二〇〇五）年七月 五日 印刷
平成十七（二〇〇五）年七月一〇日 発行

編集者 武 富 雅 宣

発行者 豊 田 寛 三

印刷者 廣 永 晴 巳

印刷所 有限会社舞鶴孔版

〒八七〇一〇〇三二 大分市大手町二丁目三十四

（☎）九七一五三二一四三三二

発行所

〒八七〇一〇二二四

大分市且ノ原七〇〇

大分大学教育福祉学部国史研究室内

大分県地方史研究会

（振替・〇一五八〇一二五二九四）

事務局 大分県先哲史料館

〒八七〇一〇八一四

大分市大字駄原五八七一一

（☎）九七一五四六一九三八〇